



生産性向上支援訓練 活用事例集

VOL.7

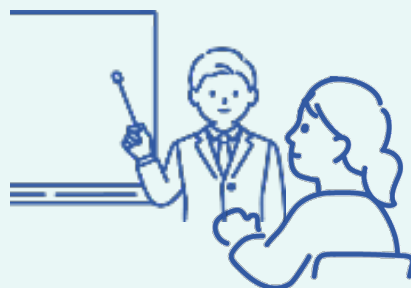


独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構
Japan Organization for Employment of the Elderly, Persons with Disabilities and Job Seekers



1. **株式会社シズナイロゴス 様** (北海道) 事業内容：運送業 ……P5
「RPAを活用した業務効率化・コスト削減」 **DX** 利用
2. **ユニカ株式会社 岩手工場 様** (岩手) 事業内容：電動先端工具等の製造・販売ほか ……P6
「社内ネットワークに役立つ管理手法」 **DX** 利用
3. **株式会社かねたや家具店 様** (千葉) 事業内容：家具・インテリア等の販売ほか ……P7
「中堅・ベテラン従業員のためのキャリア形成」 **ミドルシニア** 利用
4. **東洋電機製造株式会社 横浜製作所 様** (神奈川) 事業内容：鉄道車両用電機品等の製造・販売ほか ……P8
「DX (デジタルトランスフォーメーション) の導入」 **DX**
「IT新技術による業務改善」 **DX**
「データサイエンス入門」 **DX**
「AI活用」 **DX** 利用
5. **藤井空調工業株式会社 様** (石川) 事業内容：空気調和設備等の設計・施工・保守ほか ……P9
「提案型営業実践」 利用
6. **株式会社オーディオテクニカフクイ 様** (福井) 事業内容：音響関連機器等の設計・開発・製造 ……P10
「ビジネスとSDGs (持続可能な開発目標) の融合」 **DX** 利用
7. **電業社工事株式会社 様** (静岡) 事業内容：ポンプ・送風機等の据付・保守 ……P11
「ITツールを活用した業務改善」 **DX** 利用
8. **株式会社伊藤製作所 様** (三重) 事業内容：自動車部品等の製造当 ……P12
「ITツールを活用した業務改善」 **DX**
「DX (デジタルトランスフォーメーション) の導入」 **DX** 利用
9. **日本ソフト開発株式会社 様** (滋賀) 事業内容：情報通信業ほか ……P13
「オンラインプレゼンテーション技術」 **DX** 利用
10. **たんぼぼ調剤薬局 様** (兵庫) 事業内容：調剤薬局 ……P14
「現場社員のための組織行動力向上」 利用
11. **株式会社アテナ 様** (島根) 事業内容：シンクタンク ……P15
「データサイエンス入門」 **DX**
「IT新技術による業務改善」 **DX** 利用

- 12. 入栄工業株式会社 様** (岡山) 事業内容：鋼構造物工事業 ・・・P16
 「企業内でIT活用を推進するために必要な技術理解」 **DX**
 「情報漏えいの原因と対応・対策」 **DX**
 「個人情報保護と情報管理」 利用
- 13. ユニードパック株式会社 様** (香川) 事業内容：グラビア印刷ほか ・・・P17
 「DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進」 **DX**
 「DX（デジタルトランスフォーメーション）の導入」 **DX** 利用
- 14. 株式会社サカワ 様** (愛媛) 事業内容：黒板・電子黒板等の製造・施工・販売 ・・・P18
 「情報漏えいの原因と対応・対策」 **DX**
 「脅威情報とセキュリティ対策」 **DX** 利用
- 15. アサヒシューズ株式会社 様** (福岡) 事業内容：ゴム履物等の製造・販売 ・・・P19
 「職場のリーダーに求められる統率力の向上」
 「ものづくりの仕事のしくみと生産性向上」
 「3PLとSCM」 **DX**
 「物流システム設計」 **DX** 利用
- 16. メルコアドバンスデバイス株式会社 様** (長崎) 事業内容：高周波デバイス等の製造・組立・検査技術開発 ・・・P20
 「効果的なOJTを実施するための指導法」 **ミドルシニア** 利用
- 17. 株式会社九飛勢螺^{きゅうびせいら} 鹿児島工場 様** (鹿児島) 事業内容：各種工業用ファスナー等の開発・製造・販売 ・・・P21
 「ものづくりの仕事のしくみと生産性向上」
 「成果を上げる業務改善」 利用
- 18. 中部興産株式会社 様** (沖縄) 事業内容：賃貸管理仲介業ほか ・・・P22
 「脅威情報とセキュリティ対策」 **DX**
 「情報漏えいの原因と対応・対策」 **DX** 利用



**本事例の作成にご協力いただきました
 事業主の皆様へ、厚く御礼申し上げます。**

生産性向上支援訓練とは？

生産管理、IoT・クラウド活用、組織マネジメント、マーケティング、データ活用など、あらゆる産業分野の生産性向上に効果的なカリキュラムにより、中小企業等が生産性を向上させるために必要な知識・スキルを習得するための訓練です。

70歳までの就業機会の確保に資する中高年齢層向けの訓練コース（**ミドルシニアコース**）や、DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進に資する人材の育成を支援する訓練コース（**DX対応コース**）も実施しています。

生産性向上支援訓練では、中小企業等が抱える課題やご要望に応じてカリキュラムをカスタマイズするオーダーコースと、地域の中小企業等に共通する課題に対応したオープンコースを、専門的知見を有する民間機関等に委託して実施します。

訓練実施形式

集合形式
オンライン（同時双方向通信）形式

訓練実施場所

企業の自社会議室 等

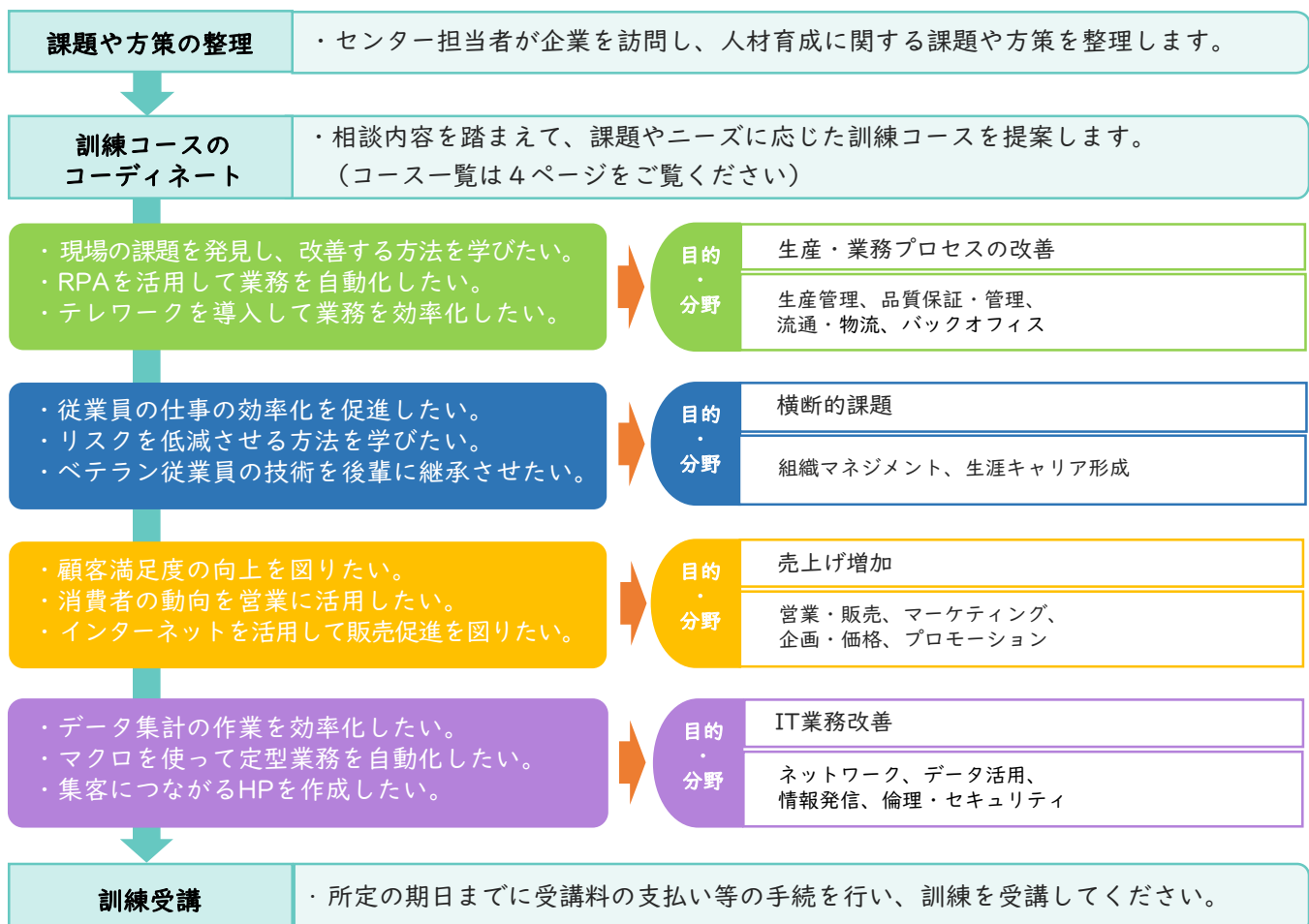
訓練時間数

6～30時間
（「IT業務改善」は4～30時間）

受講料（1人あたり）

3,300～6,600円（税込）
（「IT業務改善」は
2,200円～4,400円）
※訓練時間により変動

訓練受講までの流れ（オーダーコースの場合）



※相談内容によっては、少人数からでも受講できるオープンコースのご利用を提案する場合があります。

生産・業務プロセスの改善

- 048 ものづくりの仕事のしくみと生産性向上
- 001 生産性分析と向上
- 002 生産現場の問題解決
- 003 生産性向上のための課題とラインバランス
- 004 生産計画と工程管理
- 005 サービス業における I E 活用
- 006 原価管理とコストダウン
- 007 在庫管理システムの導入
- 008 購買・仕入れのコスト削減
- 009 POSシステムの活用技術
- 010 品質管理基本
- 011 品質管理実践
- 053 サービスマネジメントによる品質改善と向上
- 015 3PLとSCM
- 016 物流のIT化
- 013 流通システム設計
- 014 物流システム設計
- 012 卸売業・サービス業の販売戦略
- 017 SCMの現状と将来展望
- 018 クラウド活用入門
- 019 IoT活用によるビジネス展開
- 020 クラウドを活用したシステム導入
- 021 IoT導入に係る情報セキュリティ
- 054 クラウドを活用した情報共有能力の拡充
- 087 導入コストを抑えるクラウド会計・モバイルPOSレジ活用
- 083 テレワークを活用した業務効率化
- 088 テレワーク活用
- 056 ITツールを活用した業務改善
- 089 データ活用で進める業務連携
- 090 失敗しない社内システム導入
- 091 企業内でIT活用を推進するために必要な技術理解
- 092 企業内でIT活用を推進するために必要なマネジメント
- 117 DX（デジタルトランスフォーメーション）の導入
- 118 ベンダーマネジメント力の向上
- 093 IT新技術による業務改善
- 094 AI（人工知能）活用
- 095 ビッグデータ活用
- 055 RPAを活用した業務効率化・コスト削減
- 096 RPA活用
- 119 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進
- 120 データサイエンス入門
- 037 企業価値を上げるための財務管理

横断的課題

- 022 IoTを活用したビジネスモデル
- 084 ダイバーシティ・マネジメントの推進
- 121 ビジネスとSDGs（持続可能な開発目標）の融合
- 038 事故をなくす安全衛生活動
- 023 個人情報保護と情報管理
- 064 高齢労働者のための安心・安全な職場環境の構築
- 039 リスクマネジメントによる損失防止対策
- 059 災害時のリスク管理と事業継続計画
- 040 eビジネスにおけるリーガルリスク
- 057 ネット炎上時のトラブル対応
- 024 ナレッジマネジメント
- 025 知的財産権トラブルへの対応（1）
- 026 知的財産権トラブルへの対応（2）
- 058 現場社員のための組織行動力向上
- 041 業務効率向上のための時間管理
- 062 顧客満足度向上のための組織マネジメント
- 060 企画力向上のための論理的思考法
- 042 成果を上げる業務改善
- 043 組織力強化のための管理
- 061 職場のリーダーに求められる統率力の向上
- 051 管理者のための問題解決力向上
- 044 プロジェクト管理技法の向上
- 052 プロジェクトマネジメントにおけるリスク管理

- 065 継続雇用者のキャリア形成と管理者の役割
- 085 従業員満足度の向上
- 086 ストレスチェック制度を用いた職場環境改善と生産性向上
- 097 ムダを発見するための業務プロセスの見える化と業務改善
- 122 テレワーク業務における労務管理
- 126 DX人材育成の進め方
- 127 物流現場のリーダー育成
- 128 ファシリテーションを活用した合意形成の効率化
- 066 中堅・ベテラン従業員のためのキャリア形成
- 067 チーム力の強化と中堅・ベテラン従業員の役割
- 068 後輩指導力の向上と中堅・ベテラン従業員の役割
- 069 中堅・ベテラン従業員による組織の活性化のための相談技法
- 070 SNSを活用した相談・助言・指導
- 071 フォロワーシップによる組織力の向上
- 072 経験を活かした職場の安全確保（未然防止編）
- 073 経験を活かした職場の安全確保（対策編）
- 074 クラウドを活用したノウハウの蓄積と共有
- 075 職業能力の整理とノウハウの継承
- 076 職業能力の体系化と人材育成の進め方
- 077 経験に基づく営業活動の見える化と継承
- 078 効果的なOJTを実施するための指導法
- 079 ノウハウの継承のための研修講師の育成
- 080 作業手順の作成によるノウハウの継承
- 081 若手従業員に気づきを与える安全衛生活動（実施編）
- 082 若手従業員に気づきを与える安全衛生活動（点検編）

売上げ増加

- 049 提案型営業手法
- 063 ビジネス現場における交渉力
- 050 提案型営業実践
- 027 マーケティング志向の営業活動の分析と改善
- 028 統計データ解析とコンセプトメイキング
- 123 オンライン営業技術
- 029 顧客分析手法
- 045 顧客満足向上のためのCS調査とデータ分析
- 030 実務に基づくマーケティング入門
- 031 マーケティング戦略概論
- 032 マーケット情報とマーケティング計画（調査編）
- 033 マーケット情報とマーケティング計画（販売編）
- 046 インターネットマーケティングの活用
- 034 製品・市場戦略
- 035 新サービス・商品開発の基本プロセス
- 036 プロモーションとチャネル戦略
- 047 チャンスをつかむインターネットビジネス

IT業務改善

- 098 ワイヤレス環境に必要となる無線LANとセキュリティ
- 099 社内ネットワークに役立つ管理手法
- 100 表計算ソフトを活用した業務改善
- 101 業務に役立つ表計算ソフトの関数活用
- 102 表計算ソフトを活用した効果的なデータの可視化
- 103 効率よく分析するためのデータ集計
- 104 ビットテーブルを活用したデータ分析
- 105 品質管理に役立つグラフ活用
- 106 表計算ソフトを活用した統計データ解析
- 107 表計算ソフトのマクロによる定型業務の自動化
- 108 データベースを活用したデータ処理（基本編）
- 109 データベースを活用したデータ処理（応用編）
- 110 データベースを活用した高度なデータ処理
- 111 業務効率を向上させるワープロソフト活用
- 112 相手に伝わるプレゼン資料作成
- 113 集客につなげるホームページ作成
- 114 SNSを活用した情報発信
- 124 オンラインプレゼンテーション技術
- 115 脅威情報とセキュリティ対策
- 116 情報漏えいの原因と対応・対策
- 125 テレワークに対応したセキュリティ対策

1. 株式会社シズナイロゴス 様

所在地 北海道札幌市
 従業員数 360名
 事業内容 運送業



■ 支援の概要

把握した課題と目標・要望

- ・業務効率化を推進したいが、社内になかなか浸透しない。
- ・データを活用した業務運営等会社全体のDXを促進したい。



生産性向上支援訓練

DX対応コース

訓練後の成果

- ・RPA活用による業務効率化への糸口を見つけられた。
- ・会社全体のDXリテラシーが向上した。



ITツールを活用して業務効率化・DXを図る！

■ 提案内容

- ・事務職員に限らず、配送、倉庫、ドライバー等、全職種の社員が参加して職種ごと・職場ごとの作業の見える化に取り組む訓練を提案した。
- ・職種を超えた社員間で議論ができるよう、演習の多いカリキュラムにカスタマイズした。

受講した訓練：オーダーコース

コース名：「RPAを活用した業務効率化・コスト削減」
 実施時期：令和4年10月
 受講者数：12人



■ 利用者の声

事業主の声

Q.利用したきっかけを教えてください。

A. 当社は設立70周年を迎える物流企業です。物流の現場は、マンパワーとベテランの経験に頼る慣習が根強い傾向にありますが、近年は人手不足や働き方改革への対応等の変革を求められる時代になりました。こうした社会情勢もあり、会社としても感覚ではなくデータを活用した運営や会社全体のDXを促進したいと考えていました。

そこで、社員教育の部分で日頃からお世話になっているポリテクセンター北海道に相談したところ、これまでのDXに係る訓練効果等を提示いただき、当社の行うべき訓練内容の方向を整理することができ、利用に至りました。

Q.感想を教えてください。

A. 当日は、講師が社員の反応を見ながら訓練を進めてくださり、また、グループ討議の時間を設けて社員が意見を出しやすい環境を作っていただいたことで、飽きることない訓練内容となりました。RPAの概要理解に留まらず、RPAを活用した業務改善にまで目を向ける社員も現れ、明らかな意識改革につながったと思います。何より会社全体のDXリテラシーが向上した、期待以上の訓練となりました。

今回は、RPAによる短期的かつ局所的な業務の見直しを中心でしたが、今後は中長期的な目線で会社全体のDX推進に向けた訓練も実施したいと思っています。

受講者の声

Q.感想を教えてください。

A. 当社の業務上、配車や倉庫、荷主様支給の専用システム等は局所的にデジタル化されていますが、拠点間での情報共有や会社・部署単位の収支計算作業等、人力に頼る業務が多々あります。自社拠点間で飛び交うFAXや、手集計で作成する数々の資料は、働き方改革に取り組む上での大きな障害となっていました。業務を包括する基幹システム導入やメンテナンスには膨大なコストや時間がかかりますが、訓練で学んだRPA化に担当者レベルで取り組むことで、既存システムや部署間の隔たりを解消できればと考えています。RPAはプログラミングの基礎知識が必要なため、すぐに業務に取り入れるのは難しい部分もありますが、今後も学習を継続し脱アナログ、ひいては業務効率化の1つとして活用していきたいと考えています。



経営管理部 十河様

2. ユニカ株式会社 岩手工場 様

所在地 岩手県奥州市
 従業員数 53名
 事業内容 コンクリートドリル・コアドリル等電動先端工具等の製造・販売
 アンカー等建設用ファスニング資材の製造・販売



支援の概要

把握した課題と目標・要望

自工場において、ネットワークを介することにより、リアルタイムで生産設備の稼働状況をモニタリング及びデータ収集する環境を構築したい。



生産性向上支援訓練

DX対応コース

訓練後の成果

・ネットワークの設定を行い、生産設備稼働状況のリアルタイム進捗管理が可能となり業務効率が向上した。
 ・ネットワーク設定の基礎について、正しく理解することができた。



生産設備のネットワーク環境を構築し
 DXを推進する！

提案内容

・本社からDX推進に係る必達目標が示され、岩手工場としてどのように実施していくか検討されていたため、ポリテクセンター岩手にて計画していたオープンコースを利用勧奨した。

受講した訓練：オープンコース

コース名：「社内ネットワークに役立つ管理手法」
 実施時期：令和4年7月
 受講者数：3人（コース全体では7人）



利用者の声

事業主の声

Q.利用したきっかけを教えてください。

A. 当事業所は、コンクリートドリル・コアドリル等各種電動先端工具の製造販売、アンカー等建設用ファスニング資材の製造販売を行っています。今年度本社より①DX推進方法の理解、②DXを活用した生産設備のリアルタイム稼働モニタリングと日々データの収集、③DX推進キーマンの育成に係る必達目標が示され、岩手工場は②を優先として実施することとなりました。ポリテクセンター岩手の生産性向上支援訓練リーフレットによりDX対応コースが設定されていることを知り、生産設備に係るネットワーク環境の構築に役立てるため、訓練利用を決めました。

Q.感想を教えてください。

A. 訓練を利用後、ネットワークを介し、生産設備稼働状況・実績のリアルタイム進捗管理や生産部門へのデータ提供が可能となり、業務効率向上につながっています。また、DX推進の具体的な取組として、他部署から高い関心が寄せられています。今後は、他部署が見て役に立つ生産品及び稼働状況データ等の項目追加や表示方法の改良を行い、活用を進めたいと考えています。
 また、ポリテクセンター岩手で実施している表計算ソフトのマクロに関する訓練等を活用し、DX人材となるキーマンの育成に重点的に取り組みたいと考えています。

受講者の声

Q.感想を教えてください。

A. DX関連について学べる機会は貴重ですし、充実した訓練内容をリーズナブルな価格で受講することができて大変よかったです。
 訓練を受講後、一部ですが生産設備のリアルタイムモニタリングが可能となり、従来、社員が集計していた作業が自動化されたことにより負荷が軽減され、業務効率向上につながっています。今後は全生産設備へのモニタリングを早急 to 実施したいと考えています。



岩手工場で製造しているドリル

3. 株式会社かねたや家具店 様



所在地 千葉県千葉市
 従業員数 244名
 事業内容 家具・インテリア・ホームファッション・生活雑貨等の販売
 法人向けオフィス家具の設計・施工

■ 支援の概要

把握した課題と目標・要望

- ・ベテラン従業員のモチベーションをアップさせ、社内を活気づけたい。
- ・ベテラン従業員に、後輩従業員の教育に前向きに取り組んでほしい。



生産性向上支援訓練
ミドルシニアコース

訓練後の成果

- ・ベテラン従業員が家具販売の楽しさを再認識し、会社に活力が湧いた。
- ・各店舗の同じ年代の従業員同士が抱える課題を共有できてよい刺激になった。



ベテラン従業員の「モチベーションアップ」を図る！

提案内容

- ・ベテラン従業員が求められる役割の変化に気づき対応できるような知識と技能を習得するミドルシニアコースを提案した。
- ・受講者のキャリアの棚卸に十分な時間をかけるカリキュラムにカスタマイズした。

受講した訓練：オーダーコース

コース名：「中堅・ベテラン従業員のためのキャリア形成」
 実施時期：令和4年6月
 受講者数：延べ31人



■ 利用者の声

事業主の声

Q.利用したきっかけを教えてください。

A. 当社は、4年前に私が社長となってから女性活躍やハラスメントに関する研修等、社内教育に力を入れてきました。今回の訓練は、研修担当者の「ベテラン従業員に向けた研修を実施したい」という提案がきっかけでした。私も、当社が家具販売という事業の性質上、ベテラン従業員のノウハウは会社の資産であり、シニア層のモチベーションアップを図りたいと思っていました。彼らのモチベーションが上がり、ムードメーカーになることで、社内に活気があふれること、後輩従業員への教育にもっと前向きに取り組んでくれるのではないかとこのねらいもあり、当コースの利用を決めました。

Q.感想を教えてください。

A. 集合形式で実施したことが、成功の大きな要因だと感じています。コロナ禍以降、オンライン以外の研修は生産性向上支援訓練が初めてでした。各店舗の従業員が一堂に会し訓練を受講することで、同じ年代同士が抱える課題についても共有でき、よい刺激になったようです。また、訓練終了後に当社で実施したアンケートにて「家具の販売は人生の節目に立ち会える、やはり楽しい仕事だと思いつた。このことを後輩に伝えたい。」といった感想があり、印象に残っています。普段現場に立っていない私では気づきにくい視点でした。訓練を通して、従業員に活力が湧いたと感じられました。

受講者の声

Q.感想を教えてください。

A. 最初は訓練で何をやるのかわからず不安でしたが、講師が素晴らしく、終始なごやかに受講できました。グループワークも多く、ベテラン従業員として、これまで苦労したこと、これからやるべきことを気持ちよく話すことができました。他の従業員の信念や思いを聞いたことは大きかったです。個人ワークでは、これまでの経験を文章に起こすことで色々と振り返ることができました。訓練を通して、従業員それぞれ課題があると知り、また、業務以外での皆の新たな一面も知ることができ、とても有意義な訓練でした。

A. 私は「これまでやってきたことを残すこと」が使命だと、この訓練で気づくことができました。一方で、若手従業員から学ぶことや教えてもらうこともあり、特にデジタル分野についてはアナログ世代の私たちはかたがた…(笑) いくつになっても常に職場は勉強の場です。これまで以上に若手従業員とコミュニケーションを図り、年齢を問わず共に同じ目線で仕事を進め、気軽に相談される人生の先輩でいられるよう努めていきたいと思っています。



事業主・受講者
及び
研修担当の皆様

4. 東洋電機製造株式会社 横浜製作所 様

所在地 神奈川県横浜市
従業員数 830名
事業内容 鉄道車両用電機品・鉄道用電力貯蔵装置の製造・販売



支援の概要

把握した課題と目標・要望

DX等の最新情報を理解し、業務効率化や課題解決のきっかけとしたい。



生産性向上支援訓練
DX対応コース

訓練後の成果

・DX等の用語の意味や背景を理解することができた。
・自社のDXのイメージを明確にすることができた。



他社のDX事例から、自社のDXの切り口を探る！

提案内容

- ・現在の業務をどう変革すべきか、切り口やヒントが得られるコースを提案した。
- ・DXへの理解が深まるよう、同業他社の先行事例等を紹介する時間を盛り込んだ。

受講した訓練：オーダーコース

コース名：「DX（デジタルトランスフォーメーション）の導入」
「IT新技術による業務改善」「データサイエンス入門」「AI活用」
実施時期：令和4年4月～7月
受講者数：延べ55人



利用者の声

事業主の声

Q.利用したきっかけを教えてください。

A. 当社では、社員のITスキルをさらに向上したいという目標があり、IT関連技術（DX、AI、RPA、IoT等）の最新情報を理解し、業務効率向上や課題解決のきっかけとするために、生産性向上支援訓練を利用することに決めました。

Q.感想を教えてください。

A. 訓練中は生産技術部、品質保証部、開発センター、ICTソリューション事業部といった複数部門の従業員がディスカッションすることにより、それぞれの業務の課題について情報交換ができました。訓練終了後に、開発センターと生産技術部の従業員が共に現場作業を視察し、自部署の問題解決のヒントにする等、部署同士が連携して新たな活動に発展するケースもありました。
様々なITツールのうちRPAについては、スモールスタートの重要性や、無償で利用できるソフトウェアの情報等を学ぶことができました。訓練終了後も、複数の部署共同でRPA研究会を立ち上げて、活用事例の報告をしようなど、業務への広がりを狙っています。
今後は、データ処理の効率性を向上させるため、データクレンジングの内容を含む訓練の利用を検討する等、ITスキルの向上と課題解決に役立てていきたいと考えています。

受講者の声

Q.感想を教えてください。

A. 生産技術業務に従事し始めてからDX、IoT、インダストリー4.0等、デジタル社会に向けた単語を見ることが多くなっていました。今回の訓練でそれらの単語が指す意味や背景をしっかりと理解できたことがよかったです。また、訓練中に紹介されたDX事例をもとに、「DXとは具体的にどういうことか」「自社の現状とどの程度ギャップがあるのか」を演習で考えることで、自社のDXのイメージを鮮明にすることができました。DXを進めていくには、他部門からの理解や協力体制の構築が不可欠です。現在は、まずスモールスタートとして、既存のプラットフォームを有効活用した業務効率化の調査・試行を行い、他部門へ展開することで、DXの必要性・有効性を伝える活動に取り組んでいます。
今後は社内でDX成功事例を作り、DX導入に向けた基盤を確立させ、生産ラインへのデジタルデータの活用等の変革を推進していきたいです。



生産技術部長 土屋様



生産技術部 和才様

5. 藤井空調工業株式会社 様



所在地 石川県小松市
 従業員数 22名
 事業内容 空調和設備・給排水衛生設備・消火設備・機械器具の設計・施工・保守・付帯サービス

支援の概要

把握した課題と目標・要望

限られた人員の中で、効果的かつ有益な営業活動ができるようにしたい。



生産性向上支援訓練

訓練後の成果

・顧客のタイプを理解し、データ分析することが効果的な営業につながるかと学べた。
 ・時間管理や顧客満足度に対する社員の知識が向上した。



全職種のシナジーにより「営業効率アップ」を図る！

提案内容

- ・営業活動における提案・説明方法など実践を含んだカリキュラムを提案した。
- ・営業職だけでなく、製造開発やバックヤードの職種の社員にも気づきを与える内容にカスタマイズした。

受講した訓練：オーダーコース

コース名：「提案型営業実践」
 実施時期：令和4年6月
 受講者数：10人



利用者の声

事業主の声

Q.利用したきっかけを教えてください。

A. 当社では、これまで、限られた人員の中で業務改善とチーム力の強化に注力してきました。それでもなお、長時間労働や情報共有不足（コミュニケーション不足）、管理職のマネジメント不足といった課題がありました。そのような中、地域の商工会議所会報の折込みチラシでポリテクセンター石川の生産性向上支援訓練が目にとまり、相談したのがきっかけで利用に至りました。

Q.感想を教えてください。

A. 訓練を利用した結果、少なからず社員の意識の向上につながっています。特に時間管理や顧客満足度の向上については、管理職だけでなく一般社員の意識も大きくよい方向に変化してきていると感じています。ポリテクセンターの訓練は、訓練内容、実施時期、訓練時間等が当社の都合に合わせてカスタマイズできるため、要望が十分に反映され、経営方針に沿った内容の訓練が実施でき利用してよかったと思っています。

今後は、当社の課題解決に結びつくような内容や階層別のスキル向上・習得を目的とした訓練コースを実施することによって、生産性を向上させるだけでなく、時代の変化に沿った改革が推し進められるような訓練を取り入れていきたいと思っています。

受講者の声

Q.感想を教えてください。

A. 最近、営業成績が思うように上がらず、自身の応酬話法の改善が課題であると感じていました。

今回の訓練で、自身のトーク力も大切ですが、数値に基づきデータを分析することで顧客にわかりやすく説得力がある提案ができると気づかされました。顧客タイプの分析手法についても学んだので、動向・要因・検証を一つひとつ分析し、今後の自身の営業活動ツールにしたいと考えています。

今後は、顧客に満足いただけるように、自身のスキル向上に努め、会社に貢献したいと思っています。

A. 私は、現場管理の業務を行っていますが、業務のアウトソーシング、報連相や時間管理がうまくできていないことに課題を感じていました。

今回の訓練は、営業という業務のみでなく、社内・現場でのコミュニケーションに役立つ内容でした。実際に訓練を受講することで、できていない部分を再認識することができよかったです。また、営業にも様々な手法があり、今までやってきたこととこれから実践してみたいことを認識できたのもよかったです。

今までは目先の仕事をこなすことに集中しがちでしたが、全体を把握し顧客の要望を満たすことができるよう、訓練テキストも読み返しながら学んだことを常に意識していくよう心がけていきたいです。

6. 株式会社 オーディオテクニカフクイ 様

所在地 福井県越前市
 従業員数 199名
 事業内容 音響関連機器等の設計・開発・製造



支援の概要

把握した課題と目標・要望

- ・SDGsの概要を理解し、メーカーとしての責任を果たしたい。
- ・企業としてSDGsに取り組む目的やメリットを明確にし、ビジネスチャンスに結びつけたい。



生産性向上支援訓練

DX対応コース

訓練後の成果

- ・組織的にSDGsを推進していくための基本的な知識を習得できた。
- ・次年度の各部門の目標にSDGsに関連する目標や計画を加える手がかりとなった。



社内のSDGsを推進し、企業価値を高める！

提案内容

- ・なぜSDGsという概念が登場したのか、その背景、歴史、世界の潮流を理解することで、企業が目指すSDGsのあるべき姿を明確にし、取り組む具体策まで考えることを目指すカリキュラムを提案した。



受講した訓練：オーダーコース

コース名：「ビジネスとSDGs（持続可能な開発目標）の融合」
 実施時期：令和4年7月、8月
 受講者数：18人

利用者の声

事業主の声

Q.利用したきっかけを教えてください。

A. 当社は、マイクロホン・ヘッドホン等の音響機器を設計から生産まで一貫して行っています。持続可能な社会の実現に向けて、メーカーとして責任を持たなければならないと考え、当コースの利用を決めました。

Q.感想を教えてください。

A. SDGsへの取組は、一般的な知識しかなく、ぼんやりとしか理解していなかったのですが、訓練を受講して、今までの取組がSDGsにつながっていること、あまり身構えることなく身近な活動であることを理解しました。また、各部署責任者が一同に受講することで、知識を共通化することにもつながりました。
 来年以降、各部署にSDGsの取組目標を加えることで、全社的な取組として根付かせたいと考えており、持続可能な社会の実現に向けて責任を果たしていきたいと考えています。



訓練風景

受講者の声

Q.感想を教えてください。

A. 当社の各部門長を中心とした18名で、7月と8月の2日間の訓練でした。訓練では、当社がSDGs活動をスタートするにあたって、まず基礎知識を習得し、その後演習問題を交えながら世の中の流れと他社の取組事例を説明いただき、さらには具体的な題目でグループワークを実施していただいたことで、実のある訓練となりました。SDGsと聞くともっと難しい内容に捉えがちですが、他社の事例を学ぶと、我々が日頃取り組んでいる身近なことや、今までCSR活動として行ってきた内容がSDGsの活動であるという気づきがありました。サステイナブルを合言葉に、設計思想から生産活動に至るまで社内にもSDGsが浸透していくような情報共有等、まだまだやれることがたくさんあります。全社員がSDGsの必要性を理解し、当社のビジネスの成長につなげられるよう、机上の知識だけでなく実践をしていくこと、始めたことをいかに継続させるか、さらには情報発信していくのが今後の課題です。「タコ壺からの脱却」ということで、自社だけで考えるのではなく、他社の事例を学び体験と情報交換していくこともこれから大切だと感じました。

7. 電業社工事株式会社 様



所在地 静岡県三島市
 従業員数 16名
 事業内容 ポンプ・送風機等の据付・保守

■ 支援の概要

把握した課題と目標・要望

紙媒体を卒業し、ITツールを
 活用した情報共有や資料保管
 を行いたい。



生産性向上支援訓練
 DX対応コース

訓練後の成果

・ITツールの幅広い使い方を
 知ることができた。
 ・ITツール活用による業務改善
 のイメージが明確になり、社員
 のモチベーションがアップした。



紙媒体からITツールへの「デジタルイゼーション」を進める！

提案内容

・自社の課題を題材に業務改善を疑似体験し、訓練終了後すぐにでも業務改善に着手できるような演習をカリキュラムに取り入れた。



受講した訓練：オーダーコース

コース名：「ITツールを活用した業務改善」
 実施時期：令和4年9月
 受講者数：12人

■ 利用者の声

事業主の声

Q.利用したきっかけを教えてください。

A. 当社では基幹業務の処理において、印刷物での回覧による承認や紙資料の保管を伴う業務手順となっており、業務効率が悪く情報共有が困難な状況にありました。また、作業員は、現場での作業を終えてから事務所に戻り書類作成をする必要があるため、繁忙期は残業が多く発生していました。ITツールを活用してこうした状況を改善したいと考えていたところ、本コースを知り訓練利用を決めました。

Q.感想を教えてください。

A. 若手社員を中心に訓練を受講させたところ、身近なところから改善していけるようなアイデアがいくつか挙がってきました。一人ひとりが自分の業務を改善することへの意識が向上し、モチベーションアップにつながりました。また、すでに社内では整備しているツールの便利な活用方法を学ぶことができたので、すぐにも取り組んでいこうと考えています。今後は、学んだ手法を用いて、ITツールを利用した社内システムを整備し、必要な情報の共有化を図り、場所を問わずどこでも仕事ができるような業務環境への移行に役立たいと思います。

受講者の声

Q.感想を教えてください。

A. 私が所属している工事部では、客先へ提出すべき書類が多くあり、現場作業をやりながら書類作成に追われています。紙媒体が多いため情報共有が困難であり、作業員間で業務の偏りがあってもそれを解消することができない状況でした。
 今回の訓練で、ITツールには幅広い使い方があることを知り、現場で活用していきたいと思いました。タブレットを用いて測定データを現場で入力したり、クラウドを活用してファイルの共有を行ったりして、業務効率化をしようと考えています。「あんなこといいな。できたらいいな。」をキーワードに3年後の自分たちを想像して、ITツールを活用した業務改革を進めていきたいです。



管理部長 鈴木様



受講者 荒木様

8. 株式会社伊藤製作所 様



所在地 三重県四日市市
 従業員数 135名
 事業内容 順送プレス金型による自動車部品製造等

■ 支援の概要

把握した課題と目標・要望

全社的にデジタル化に取り組む上で、一部の社員だけでは推進が難しい。デジタル化やDXの知識を全社的に共有したい。



生産性向上支援訓練
 DX対応コース

訓練後の成果

「DX活用により業務改善や効率化が可能である」との気づきが得られ、社員の意識や取組意欲が向上した。



デジタル化推進に向けた意識を会社全体で共有する！

提案内容

- ・一般社員向けには、デジタル化アレルギー解消のためのDXの基礎が学べる内容、経営層向けにはデジタルによる業務改善推進が学べる内容を盛り込んだカリキュラムを提案した。
- ・工場の稼働状況や業務への影響を考慮し、3時間×2日（計6時間）のスケジュールを提案した。

受講した訓練：オーダーコース

コース名：「ITツールを活用した業務改善」
 「DX（デジタルトランスフォーメーション）の導入」
 実施時期：令和4年7～8月
 受講者数：延べ30人



■ 利用者の声

事業主の声

Q.利用したきっかけを教えてください。

A. 当社は1945年の創業以来、9,000型を超える順送プレス金型を製作し、自動車用精密プレス部品の量産を行っています。2017年からプレス加工のIoT化や業務のデジタル化に取り組んでおり、2022年には金型専用工場「テクニカルセンター」を新設しました。金型製作においてデジタル化を推進し、自動車向け金型等の付加価値の創出につなげています。
 全社的なデジタル化を推進していく上で、一部の社員や経営層だけの推進は難しく「デジタル化でどのようなことができるのか」「どのように業務の効率化ができるか」などの知識を全社的に共有する必要があります。そこでポリテクセンター三重へ相談したところ、DX対応コースのオーダーコースの提案をいただきました。

Q.感想を教えてください。

A. 今回の利用を通じて、社員が「DXにより業務改善や仕事の効率化が可能」との気づきを得られたことで、個々のルーチンワークやチームでの業務等、身近な部分でのデジタル化による業務改善の取組が始まりました。今後はクラウドの業務系アプリケーション活用や設備のリモート監視等にも着手していきたいです。

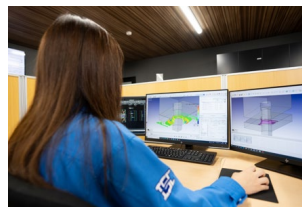


代表取締役社長
伊藤様

受講者の声

Q.感想を教えてください。

A. 「DXとは何なのか」を非常によく理解できました。社内においてDXを推進するにあたり「何に注目すべきか」「何から始めるべきか」を明確にすることができ、デジタル化による業務改善に対する取組意欲が高まりました。
 訓練ではグループワークの時間が多く、ディスカッションを通じて社内のコミュニケーションが深く取れたことも、今後業務を進めるにあたって大変有益であったと感じています。



デジタル化のために導入したCAE



デジタル化のために開発したIoT機器

9. 日本ソフト開発株式会社 様

所在地 滋賀県米原市
 従業員数 142名
 事業内容 情報通信業、ソフトウェア開発を中心とした各種ITソリューション



支援の概要

把握した課題と目標・要望

オンラインでプレゼンテーションを行う機会が多いため、効果的なプレゼンテーション技法を実践を交えて学びたい。



生産性向上支援訓練
DX対応コース

訓練後の成果

・自分のプレゼンに対して客観的な意見をもらえたことで、今後の業務に活用できる。
 ・他部門でどのようなプレゼンを行っているか見ることができて勉強になった。



オンラインでプレゼンテーション技術を習得する！

提案内容

・受講者が作成済みの資料をオンラインでプレゼンし、講師の講評後、資料をブラッシュアップする訓練内容を提案した。

受講した訓練：オーダーコース

コース名：「オンラインプレゼンテーション技術」
 実施時期：令和4年8月
 受講者数：16人



利用者の声

事業主の声

Q.利用したきっかけを教えてください。

A. 当社が携わるソフトウェア・ICTソリューション事業においては、常にお客様の要望の一步先の高付加価値な商品・サービスを提供していくことが求められます。先進的なアイデアも高品質な製品も生み出すのは「ひと」だと考え、誰もが活き活きと輝きながら働ける環境づくりに力を注いでいます。

生産性向上支援訓練のオープンコース利用がきっかけで、オーダーコースがあることを知りました。当社の業務内容や課題に合わせて具体的に理解しやすい訓練にカスタマイズできる点が決め手となり、今回の利用に至りました。

Q.感想を教えてください。

A. 様々な部署の社員が一同に訓練を受講することで、「あの人がいい」といった発見があったり、社員同士でアドバイスしあったり、コミュニケーションを図るよききっかけになりました。自分に足りない部分や将来の目標とするイメージが見えてくる等、受講者にとってよい経験となったようです。

訓練終了後に、講師から所感として当社社員の特徴や足りないところ等についてアドバイスをいただきました。今後の社内教育のテーマ選定の参考にさせていただきます。

受講者の声

Q.感想を教えてください。

A. DX営業推進グループで、業務自動化ソフトウェアの営業を担当しています。

訓練では、受講者が順番にオンラインプレゼンテーションを実践する時間があり、話すスピードや間の取り方、文字の大きさや配色など具体的なアドバイスをいただきました。他の受講者のプレゼンテーションに対する講評についても、自分ならどうするかを考えることで、より理解が深まったと感じています。

オンライン会議では、直接会って説明するよりも印象に残りづらかったり、話が伝わりにくかったりします。そのため、打ち合わせの目的を最初に伝えること、次のステップは何をすべきかお客様と認識を合わせることを徹底していきたいです。そして、プレゼンテーションの合間には会話のキャッチボールを行い、意思疎通が取れているかを確認しながら伝わりやすい話し方を実践していきたいです。



訓練風景

10. たんぽぽ調剤薬局 様

所在地 兵庫県多可郡
従業員数 41名
事業内容 調剤薬局



支援の概要

把握した課題と目標・要望

薬剤関係の専門的知識はスキルアップできているが、**店舗経営や組織マネジメント等の管理的視点を学ぶ機会がない。**



生産性向上支援訓練

訓練後の成果

・各店舗で主体的に業務改善を起こすきっかけとなった。
・管理者として部下に対する接し方のヒントが得られた。



専門知識に経営・組織の視点を加え、「**組織力強化**」を図る！

提案内容

- ・経営的な視点を持って考え行動したいとの要望に対して、組織行動力向上のコースを提案した。
- ・調剤薬局以外の企業がどのような経営を行っているか、どのような取組を行っているか等の事例の学ぶカリキュラムを作成した。



受講した訓練：オーダーコース

コース名：「現場社員のための組織行動力向上」
実施時期：令和4年6月
受講者数：10人

利用者の声

事業主の声

Q.利用したきっかけを教えてください。

- A. 但馬銀行様からのご紹介で、生産性向上支援訓練を利用しました。管理薬剤師は、専門的知見が必要であるため、今までは主に薬剤師向けの研修を利用していました。薬剤師個人としての知識は得られますが、会社の現状に対する認識や組織の方向性については各店舗の管理者間で差が生じていました。

そこで、ポリテクセンター兵庫から、管理薬剤師が経営的視点で考えて行動するための知識や考え方を学ぶ訓練を提案していただきました。

Q.感想を教えてください。

- A. 訓練では、経営者の視点で物事を考え、各店舗で主体的に業務改善活動を起こし、よい取組として全店舗に波及するような組織や個人になるための知識や考え方を学びました。また、他業種の取組事例の紹介やグループワーク等演習を含めたカリキュラムとなっており、非常にわかりやすく、役に立ちました。訓練を受講した社員も興味を持ってたようなのでよかったです。学んだ内容は調剤薬局の仕事内容と異なる部分もありましたが、店舗業務に置き換えて活用するよう、進めていきたいと思っています。

今後は、顧客の要求に対する応え方を学ぶ訓練の利用を検討しています。

受講者の声

Q.感想を教えてください。

- A. 調剤薬局は、薬剤師個人の業務が多いですが、個人で行える業務には限界があります。組織としてどのように行動するかで効率化が図れるのではないかと感じていましたが、各店舗の管理者が組織行動力の向上についてどのように考えているのかわからない状況でした。

訓練を受講して、管理者として部下に対する接し方のヒントが得られたと感じています。生産性向上の観点からコミュニケーションの取り方等も普通の視点とは異なる角度から勉強できたと思います。また、PDCAサイクルを利用した問題解決方法がより明確になったと思います。

今回の訓練で得られたコミュニケーション力、課題解決方法、組織行動力向上のための思考を駆使して各店舗の生産性向上につなげていきたいです。

11. 株式会社アテナ 様

所在地 島根県松江市
 従業員数 8名
 事業内容 シンクタンク



支援の概要

把握した課題と目標・要望

業務成果は個々の裁量による
 ところが大きいので、**新技術**
 や**ITツール**を積極的に取り入
 れていきたい。



生産性向上支援訓練

DX対応コース

訓練後の成果

新技術やITツールを活用して、
 効率良く業務を行うための
データ活用・分析手法を習得
 できた。



個人裁量の業務は「**最新技術の有効活用**」で選択肢を広げる！

提案内容

- ・DX対応コースのうち、特にバックオフィス分野の新技術活用について学べるコースを提案した。
- ・総論だけでなく、統計ソフトの実践等、演習を多く組み入れる内容にカスタマイズした。

受講した訓練：オーダーコース

コース名：「データサイエンス入門」
 「IT新技術による業務改善」
 実施時期：令和4年8月～9月
 受講者数：延べ16人



利用者の声

事業主の声

Q.利用したきっかけを教えてください。

A. 当社は、国や地方自治体がつくる各種計画の策定支援を行っています。サービス業の中でも人件費の占める割合が高い業種で、業務成果は個々の裁量によるところが大きく、それぞれに新技術や高度化する知識・技能に対し常にアンテナを立てておく必要があると感じています。
 そのような中、ポリテクセンター島根に会い5年目を迎えますが、継続して最適な訓練を提案していただいています。小規模事業者が単独でその道に精通している講師を探すのは困難ですが、多岐にわたる要望に丁寧に応えていただいています。

Q.感想を教えてください。

A. 訓練で学んだ新技術やITツールを使い、「基礎資料となるデータ解析」「実態を把握する現地調査結果の解析」「住民アンケートの集計・分析」で自動化や効率化を図り、労働時間の短縮と所得向上につなげていきたいと考えています。働きやすい環境と個々の能力向上は一見両立が難しいように感じますが、より深い分析を行い社会問題の解決に向けたアイデアを生み出すために、最新技術の習得を継続していきたいと思えます。

受講者の声

Q.感想を教えてください。

A. 私は訓練の中で行ったグループワークが最も印象に残っています。グループワークでは、現在の業務プロセスの課題の洗い出しや効率よく業務を行うためのデータの活用方法・分析方法、自社のIT技術の活用状況等に関して受講者同士で意見を出し合いました。自分自身が感じていなかった課題点やアイデアを聞くことができ、新たな発見や気づきを得ることができました。
 訓練全体を通して、最新技術を有効に活用することで業務効率化や生産性向上だけでなく、リモートワーク等働き方の選択肢を広げることにもつながるのではないかと考えるようになりました。社員一人ひとりの能力向上と働きやすい職場環境の実現ができるといいなと思います。



訓練風景

12. 入栄工業株式会社 様

所在地 岡山県井原市
 従業員数 93名
 事業内容 鋼構造物工事業



支援の概要

把握した課題と目標・要望

ITツールの活用方法に部署ごとに差があるため、ITスキルのレベルアップを図りたい。



訓練後の成果

ITツールを使用することで、どの業務を自動化することができるかについての知識を習得することができた。



生産性向上支援訓練
DX対応コース

ITツールの活用方法を習得して業務の効率化・自動化を図る！

提案内容

・令和3年度に受講した「業務効率を向上させるワープロソフト活用」「表計算ソフトを活用した業務改善」のステップアップとして、従業員のPCスキルや情報リテラシーを向上させるコースを提案した。

受講した訓練：オーダーコース

コース名：「企業内でIT活用を推進するために必要な技術理解」
 「情報漏えいの原因と対応・対策」「個人情報保護と情報管理」
 実施時期：令和4年6月～9月
 受講者数：延べ57人



利用者の声

事業主の声

Q.利用したきっかけを教えてください。

A. 当社では、IT技術を取り入れていくことが必須になると考え、これまで帳票電子化ツールなど様々なITツールを導入してきました。しかし、部署ごとにITツールの活用方法に差があり、有効活用できているのか疑問を感じていました。そんな折、ポリテクセンター岡山から生産性向上支援訓練の提案をいただき、実際に業務を行う部署が主導となり、帳票などの作成方法について社内で講習を行った上で、さらなる業務効率の向上及びIT知識のレベルアップを図るため、今回の訓練利用を決めました。

Q.感想を教えてください。

A. 訓練を利用して、業務における無駄やITツールを使うことで簡易化する部分が部署ごとに整理できました。また、どの部分を簡易化・自動化することができるのか等について、知識を習得することができました。訓練受講者から「この業務は自動化できる」等の具体的なアイデアも出ており、今後ITツールを浸透させていくことでさらなる業務効率化が可能になるのではと期待しています。

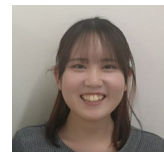
受講者の声

Q.感想を教えてください。

A. 私が担当する業務の中でお弁当の発注業務と出勤情報等を各事業所に毎朝送付するという業務があり、定刻になると必ず行う必要があるため、他の業務と重なった場合に煩わしさを感じていました。今回「企業内でIT活用を推進するために必要な技術理解」の訓練を受講し、導入事例等にあった業務自動化を使って課題を解決できるのではと気づくことができました。現在はRPAを活用して、定刻になると自動でデータを取引先や社内へ送付するよう取り組んでいます。今後は、私のメインの業務である材料の数量出しや見積書の作成などにもRPAを活用していきたいです。できるだけ人の手を介さないで自動で業務を進めることができるよう、担当の業務のフローチャートを作成し、RPAに置き換えることのできる業務の洗い出しをしています。今回の訓練でまだまだ知らないことがたくさんあることを知り、便利な機能もたくさんあると感じたので、さらに勉強して業務効率化に役立てたいです。



取締役総務経理部長
丸尾様



営業部事務 塩飽様

13. ユニードパック株式会社 様

所在地 香川県仲多度郡
従業員数 122名
事業内容 グラビア印刷、包装資材の製造・販売



支援の概要

把握した課題と目標・要望

会社全体でDXに取り組みたいが、従業員間での情報リテラシーに格差があるため、社内全体の知識の底上げを図りたい。



生産性向上支援訓練

DX対応コース

訓練後の成果

・自身で学ぶより効率的にDXの概要やビジネスモデルを学べた。
・社員が自発的にIT関連の知識を習得したり、資格取得に向けて勉強したりするようになった。



従業員間の情報リテラシー格差を埋め、社内DXを前進させる！

提案内容

・DXの必要性は理解しているが、従業員間で情報リテラシーに大きな格差があったため、DXの基礎を学ぶコースを提案した。

受講した訓練：オーダーコース

コース名：「DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進」
「DX（デジタルトランスフォーメーション）の導入」
実施時期：令和4年6月～7月
受講者数：延べ30人



利用者の声

事業主の声

Q.利用したきっかけを教えてください。

A. 私たちの会社は、お客様が必要とする袋を提供することを目的として、軟包材づくりに取り組んでいます。当社の課題は、従業員間での情報リテラシーに大きな格差があることでした。社内でも1回DX会議を開催していますが、発表者の一方的な報告で終わってしまうのが実状でした。そのときに、ポリテクセンター香川からDX対応コースを提案いただき、社内全体の知識の底上げを図るため、訓練を利用することになりました。

Q.感想を教えてください。

A. 訓練を利用して見て、訓練内容をすぐに実践・活用というのは難しいですが、DXについてまず意識をするという段階には各自進めたと思います。また、業務以外でディスカッションをする場はめったになかったので、そういった部分が新鮮でよかったと思います。現在、具体的に何ができたというのはないですが、受講者の変化として、一部の受講者からIT関連の資格を勉強し始める人が出てきました。また、受講者の多くが、訓練で出てきた「アジャイル開発」という言葉に強い印象を持ったようで、小さな開発・改善サイクルを積極的に回すということを業務で実践していけたらと思います。今後は会社としても、訓練受講者を中心に情報処理能力を持った人材を育成していきたいです。

受講者の声

Q.感想を教えてください。

A. 私の上司が社内ネットワークを1人で管理しており、その補助を行うためにも最低限のIT知識をつけなければいけないと感じたので受講しました。受講前は訓練と聞くイメージでしたが、ディスカッション等もあったので受講しやすかったです。私自身は以前からITパスポートの勉強をしており、DXのことを表面的には理解していましたが、今回訓練を受講したことで、自分の中で復習ができ、DXの知識がさらに深まりました。聞くばかりではなく会社の人と意見交換ができたこともよかったと思います。訓練で学んだことを実務の中で活かすことはこれからですが、DXやITに対しては意識をして目をつけるようになると思います。また、部署内のどの部分をIT化しDXにつなげていけるのかという課題もわかりました。これからは、より掘り下げて知識をつける必要を感じたので、勉強をしつつ自身のスキルアップにつなげ、社内全体でDXに積極的に取り組んでいきたいです。



デジタル課 課長代理
秦様

総務課 係長
佐藤様

14. 株式会社サカワ 様

所在地 愛媛県東温市
 従業員数 30名
 事業内容 黒板・電子黒板等の製造・施工・販売



支援の概要

把握した課題と目標・要望

- ・顧客情報やデータ等を取り扱う機会が増え、個人情報の取扱いや情報漏えい等社内環境の整備不足を感じていた。
- ・情報漏えい事故等の発生に対する不安があった。



生産性向上支援訓練

DX対応コース

訓練後の成果

- ・社内で情報セキュリティ対策項目を作成し実行する等、社内環境の整備が進んだ。
- ・従業員が不審メールへの対応や注意喚起を実行できるようになった。



情報管理のルールを整備して、顧客から信頼される企業を目指す！

提案内容

- ・情報漏えい等の知識不足や社内環境の整備不足に対して、「情報漏えいの原因と対応・対策」を提案した。
- ・愛媛本社に加え、東京支店があることを踏まえ、本社は集合形式、支店はオンライン形式での訓練実施形式を提案した。



受講した訓練：オーダーコース

コース名：「情報漏えいの原因と対応・対策」「脅威情報とセキュリティ対策」
 実施時期：令和4年2月、令和5年2月
 受講者数：延べ48人

利用者の声

事業主の声

Q.利用したきっかけを教えてください。

A. 当社は、学校等に置かれている黒板の製造から設置までを行っている会社です。近年はIT技術の進化に合わせて電子黒板を製造しており、クラウドでお客様の情報やデータ等を取り扱う機会が増えることを見越して情報セキュリティの社内規定を整備しました。しかし、規定が従業員に浸透していない部分があり、情報セキュリティの重要性等を学ぶ機会を探していたところ、知人の紹介でポリテクセンター愛媛を知り、全従業員でオーダーコースを利用することとなりました。

Q.感想を教えてください。

A. 訓練を利用した結果、明らかに社員一人ひとりの知識の向上を感じています。例えば、従業員の誰かに怪しいメールが届いたら、当社で使用しているコミュニケーションツールのセキュリティチャンネルを使って、全社で共有し、同様のメールが届いても開封しないといった注意喚起を行っています。また、「個人情報を含む情報資産の洗い出し」「紙媒体資料の保管方法のルール化」「個人情報保護方針の改定」等、社内で15項目の情報セキュリティ対策項目を作成し順次取り組んでいます。

情報セキュリティ対策は終わりが無い上、社内だけでなくお客様にも影響が及ぶ可能性があるため、経営上重要な課題として位置づけて、今度も積極的に取り組んでいく予定です。

受講者の声

Q.感想を教えてください。

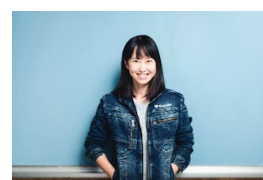
A. 当社は工場での作業を主とする製造業ですが、事業拡大に伴いお客様との取引も拡大していく中で、お客様から情報セキュリティ体制について聞かれる場面も増えており、重要性を意識し始めていました。そんな中、訓練を受講することとなり、とても勉強になりました。日々の業務に関係して、すぐに行動に移せる内容だったこともよかったです。PCやデータの中を守るべき情報があると思っていましたが、訓練を通して、紙の資料であったり、工場にある材料、資材、宅配便伝票、ゴミに至るまでが情報資産であって、会社にとって守るべき大事なものだということを変更して理解しました。

情報セキュリティはすぐに売上に直結するものではないので、社内に展開するのが難しいと思うところもありますが、取組へのモチベーションを保つため、ポリテクセンター愛媛の訓練を今後も利用したいです。

現在取引のある会社などの第三者の協力も得ながら、少しずつですが情報セキュリティ対策を実行しています。今後も社内外で連携して情報セキュリティ対策を継続していきたいと思っています。



取締役本部長 坂和様



主任 兵頭様

15. アサヒシューズ株式会社 様

所在地 福岡県久留米市
 従業員数 520名
 事業内容 ゴム履物・革靴の製造・販売



支援の概要

把握した課題と目標・要望

大きく変化する市場動向を受け、
 新規採用社員研修のみならず、
 階層別研修により人材育成に取
 り組みたい。



生産性向上支援訓練

DX対応コース

訓練後の成果

・社内教育研修プログラム
 を進めるきっかけとなった。
 ・階層別・部門別の課題や悩
 みに沿ったカリキュラムによ
 り、業務改善につながった。



「階層別研修」を導入し、組織全体の人材育成に注力する！

提案内容

・管理者層、製造部門、流通部門それぞれに対して生産性向上につながる訓練コースを提案した。

受講した訓練：オーダーコース

コース名：管理者層向け「職場のリーダーに求められる統率力の向上」
 製造部門向け「ものづくりの仕事のしくみと生産性向上」
 流通部門向け「3PLとSCM」「物流システム設計」

実施時期：令和4年5月～10月
 受講者数：延べ72人



利用者の声

事業主の声

Q.利用したきっかけを教えてください。

A. 当社は国内に自社工場を持つ靴メーカーです。特に「健康」にこだわった靴づくりに注力しており、「靴を通じて日本の健康づくりに貢献します」という企業理念のもと、商品を開発しています。
 会社の事情により長年社員教育ができていませんでしたが、今後労働人口の減少が見込まれる中で、当社も業務改善や生産性向上が必須であると考え、ポリテクセンター福岡に相談したところ、まずは管理者層を対象に訓練を実施することとなりました。その後、製造部門、流通部門の管理者への訓練も続けて実施しました。

Q.感想を教えてください。

A. 毎回、訓練前には訓練を担当いただく実施機関と事前打ち合わせを行い、受講者の職種・階層ごとの課題や悩みに沿ったカリキュラムを組んでいただいています。
 訓練では、経験豊富な専門の講師に担当いただくので、受講者には説得力がある内容となっており、講義のみだけでなく実際に演習をすることで体感しながら学ぶことができています。また、受講者の部門以外でも共有できる部分が多く、社内で内容を共有することで社員の意識改革及び業務改善に活用しています。
 今回の訓練を契機に、社内教育研修プログラムを進めることとなりましたので、ポリテクセンター福岡の訓練も引き続き活用したいと思います。

受講者の声

Q.感想を教えてください。

A. 訓練を終えて、今後どのように仕事に取り組むべきか、本来の自分の立場のあるべき姿がわかり、目標や課題が明確になりました。現在、作業改善を考えていますが、なかなかうまくいかず時間もかかることから半ば諦めかけていました。講義の中で失敗しても根気強く取り組んでいくことが重要と言われ、もう一度、諦めずに挑戦しようと思えることができました。
 また、効果の大きな改善だけを目指すのではなく小さな改善をコツコツ積み上げていくことも生産性の向上につながると学んだので、もう一度、現場の作業を見直して、小さな改善も実行しようと決意しました。今回学んだことを現場の作業者とも共有し、少しでもムダを無くし原価低減に努めたいと思います。



訓練風景

16. メルコアドバンストデバイス株式会社 様

所在地 長崎県諫早市
 従業員数 321名
 事業内容 高周波デバイス・光デバイス・赤外線センサの製造・組立・検査技術開発



支援の概要

把握した課題と目標・要望

OJTは属人的になりやすく、教育担当者による指導方法の質にばらつきを感じている。



生産性向上支援訓練
ミドルシニアコース

訓練後の成果

新人等の教育は担当者だけに任せるのではなく、会社全体で受け入れる職場風土作りにつながった。



現場で活かせる実践的指導法により「OJTの質の向上」を図る！！

提案内容

・ケーススタディにより後輩従業員への指導方法を考える演習を多く取り入れた。

受講した訓練：オーダーコース

コース名：「効果的なOJTを実施するための指導法」
 実施時期：令和4年2月
 受講者数：18人



利用者の声

事業主の声

Q.利用したきっかけを教えてください。

A. 当社は、高周波デバイス、光デバイス、赤外線センサの製造（組立・検査）及び組立・検査技術の開発を担う三菱電機グループの会社です。
 人材育成の重要性が増す中、育成の核となるOJTは属人的になりやすく、教育担当者による質のばらつきを感じていました。初めて教育担当となる従業員も多く、担当者に対して知識等の一定の平準化を図ることを目的に社内研修を検討していたところ、ポリテクセンター長崎から生産性向上支援訓練の提案を受け、受講料が低廉なことも後押しとなり、実施に至りました。

Q.感想を教えてください。

A. 事前に実施機関と打ち合わせをすることで、当社の訓練目的を共有し、様々な要望や受講者レベルに合わせたカリキュラムにカスタマイズすることができました。また、座学だけでなく、実践に即したグループワークを多く取り入れることができ、教育を担当する受講者間の横断的なコミュニケーションの活性化にもつながったように感じます。
 今回の訓練を通して、教育担当者への知識付与の重要性を学びました。そして、新人に対する教育は担当者だけに任せるのではなく職場全体で行うことを再確認し、受け入れ職場に対する社内研修を実施した結果、担当者以外の従業員も他人事でなく、自分の役割として積極的に受け入れる職場風土作りにつながりました。

受講者の声

Q.感想を教えてください。

A. 新人教育における柔軟な対応や考え方について、深く理解することができました。同じ新人であっても時代の背景や育った環境の違いがあり特徴は様々であるため、自分の経験や時代を基準として判断・行動しないこと、相手の育った環境、個性に配慮して人材育成・指導をしていくことを学びました。そのためにコミュニケーションをとりながら観察し、相手の変化に気づき褒めること、叱ることが大事であることがわかりました。実際の指導では、目標を設定する際は6W2Hで伝え、目標の判定方法は誰でもわかりやすい指標を使い明確にすることが必要だとわかりました。OJTの下準備を行うことにより誰でもわかりやすい指標を作成して、今後教育していきたいと思えます。



訓練風景

17. 株式会社九飛勢螺 鹿児島工場 様

所在地 鹿児島県鹿児島市
 従業員数 106名
 事業内容 ビアスピス（ドリルねじ）をはじめとする各種工業用ファスナー等の開発・製造・販売



支援の概要

把握した課題と目標・要望

ものづくりの現場における業務改善や生産性向上のための視点を学びたい。



生産性向上支援訓練

訓練後の成果

従来からのやり方や習慣の中のムダを改善することで生産性向上につながると気づけた。



従来の習慣の中にムダを見つけ、ものづくり現場の問題解決につなげる！

提案内容

・ものづくりの基本や業務改善の方法を学べるコースを提案した。

受講した訓練：オーダーコース

コース名：「成果を上げる業務改善」「ものづくりの仕事のしくみと生産性向上」
 実施時期：令和4年6月～7月
 受講者数：延べ28人



利用者の声

事業主の声

Q.利用したきっかけを教えてください。

A. 担当業務に関するスキルは身につくものの、日頃の業務に時間が取られ、製造の基礎となる考えやツールが疎かになっていました。具体的には、生産の一次管理といわれる「Q(品質)C(原価)D(納期)」の視点をもって自社の問題点を解決し、顧客満足度を向上させることの重要性が少し欠如していました。

令和3年度から管理職を中心にオーダーコースを利用しており、受講者から「参考になった」「また次回も機会があれば違う社員を受講させたい」と声が挙がっていました。そこで、今年度も同様に新管理職と次期候補者を含め、社員の知識と能力を底上げし、スキルを見える化するためにオーダーコースの訓練を利用させていただきました。

Q.感想を教えてください。

A. 訓練で学んだことを継続的に実施するために、製造部長、各製造課長が中心となって定期的に会合を開いており、グループワークを通して現場に潜在している問題点の見つけ方、解決の糸口を見出す等、少しずつではありますが成果が出ていることを実感しています。今後は、当たり前となっている作業を見つめ直し、生産現場のあらゆる工程に対応したオリジナルの省力化と自動化等により業務効率化と生産性向上に取り組みたいと考えています。

受講者の声

Q.感想を教えてください。

A. 「この訓練を受けてどのように業務に活かしますか？」訓練を受講する冒頭で講師から言われた一言が、今でも頭に残っています。これまでも業務改善に関するセミナーは数回受けており、考え方やスキルはなんとなく身に付いていましたが、「どのように？」と言われると答えが出ませんでした。訓練を受講して、費用をかけた大きい効果の改善から取り組むのではなく、まずは人の問題に着目し、従来からのやり方や習慣の中にあるムダの改善を行い、その中から出た利益で大きい改善と効果をねらっていく、といった考え方に変わりました。実際に課やグループ単位でもこの動きが浸透しており、改善内容の情報共有や水平展開にもつながってきています。今後どのように活かすか、大事な気づきを教えてもらいました。



訓練風景

18. 中部興産 株式会社 様

所在地 沖縄県沖縄市
 従業員数 153名
 事業内容 賃貸管理仲介業・不動産売買・マンション管理



■ 支援の概要

把握した課題と目標・要望

情報セキュリティ対策や情報漏えいについて、従業員ごとに生じている意識の差を埋め、知識を深めたい。



生産性向上支援訓練

DX対応コース

訓練後の成果

・情報セキュリティ、コンピュータウイルス、情報漏えいに関するイメージや知識を深めることができた。
 ・常に情報漏えい等のリスクを意識して業務に取り組むようになった。



情報セキュリティや情報漏えいを学び「リスク管理」につなげる！

■ 提案内容

・情報セキュリティ対策と情報漏えいのどちらも学べるよう2コースを提案した。訓練に割ける時間を考慮して各コース4時間のカリキュラムとした。

受講した訓練：オーダーコース

コース名：「脅威情報とセキュリティ対策」「情報漏えいの原因と対応・対策」
 実施時期：令和4年4月
 受講者数：延べ36人



■ 利用者の声

事業主の声

Q.利用したきっかけを教えてください。

A. 当社は、賃貸管理仲介業・不動産売買・マンション管理を中心に事業を展開している企業です。
 令和2年度にオーダーコースによりパソコンスキル習得等の訓練利用を予定していましたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い中止となりました。その後、感染状況が落ち着いてきた頃、ポリテクセンター沖縄から、情報セキュリティ対策や情報漏えい対策に係る訓練利用について提案を受けました。当社においても、従業員に情報セキュリティやコンピュータウイルスに対する意識を持った上で業務にあたってほしいという思いがあったため、2コースの利用を決めました。

Q.感想を教えてください。

A. 訓練を利用した結果、情報セキュリティや情報漏えいについて、従業員が具体的にイメージできるようになり、情報管理を意識するようになったのでよかったです。今回は短時間での訓練だったので内容が限られていましたが、身近な具体例や県内の事例等もあるとなおよかったと思いました。訓練で学んだ内容は、情報漏えいのリスク管理を常に促すための例として常に社内でも活用しています。
 今後は、情報セキュリティ対策と合わせて表計算ソフトを用いた業務改善の訓練なども活用してみたいです。

受講者の声

Q.感想を教えてください。

A. 訓練を受講して、不正アクセス、マルウェアへの感染や情報漏えい事案等、いつ自身が当事者となってもおかしくない状況を理解し、他人事ではないことを再認識することができました。また、組織や個人に対する損害賠償の事例から、事故発生時の影響の大きさを改めて捉えることができました。情報セキュリティ事故の原因の大半がヒューマンエラーであると学び、訓練受講後は、常日頃から情報セキュリティ対策に対する意識を持ち業務に取り組んでいます。
 情報セキュリティ教育は、決して「訓練を受講して終わり」ではなく、継続的に行うことで組織の文化が醸成できると思います。サイバーリスクに強い企業をつくり、企業文化の一要素として情報セキュリティが定着するよう、今後も継続的に学んでいきたいと思えます。

生産性向上人材育成支援センター設置施設一覧

都道府県	施設名(所在地)	電話番号	都道府県	施設名(所在地)	電話番号
北海道	ポリテクセンター北海道(札幌市西区)	011-640-8822	愛知	ポリテクセンター中部(小牧市)	0568-79-0511
	ポリテクセンター旭川(旭川市)	0166-48-2412		” 名古屋事務所(名古屋市中区)	052-221-8754
	ポリテクセンター釧路(釧路市)	0154-57-8114		” 名古屋港湾労働分所(名古屋市港区)	052-381-2775
	ポリテクセンター函館(函館市)	0138-52-0323	三重	ポリテクセンター三重(四日市市)	059-321-3171
北海道ポリテクカレッジ(小樽市)	0134-62-3553	ポリテクセンター伊勢(伊勢市)		0596-37-3121	
青森	ポリテクセンター青森(青森市)	017-777-1234	滋賀	ポリテクセンター滋賀(大津市)	077-537-1164
	ポリテクカレッジ青森(五所川原市)	0173-37-3201		ポリテクカレッジ滋賀(近江八幡市)	0748-31-2250
岩手	ポリテクセンター岩手(花巻市)	0198-23-5354	京都	ポリテクセンター京都(長岡京市)	075-951-7391
宮城	ポリテクセンター宮城(多賀城市)	022-362-2253		ポリテクカレッジ京都(舞鶴市)	0773-75-4340
	東北ポリテクカレッジ(栗原市)	0228-22-2082	大阪	ポリテクセンター関西(摂津市)	06-6383-0949
秋田	ポリテクセンター秋田(潟上市)	018-873-3177		近畿ポリテクカレッジ(岸和田市)	072-489-2111
	ポリテクカレッジ秋田(大館市)	0186-42-5700	ポリテクセンター兵庫(尼崎市)	06-6431-7276	
山形	ポリテクセンター山形(山形市)	023-686-2225	兵庫	ポリテクセンター加古川(加古川市)	079-431-2516
	ポリテクセンター福島(福島市)	024-534-3637		ポリテクカレッジ神戸港(神戸市中央区)	078-303-7325
福島	ポリテクセンターいわき(いわき市)	0246-26-1231	奈良	ポリテクセンター奈良(橿原市)	0744-22-5224
	ポリテクセンター会津(会津若松市)	0242-26-0515		和歌山	ポリテクセンター和歌山(和歌山市)
茨城	ポリテクセンター茨城(常総市)	0297-22-8800	鳥取	ポリテクセンター鳥取(鳥取市)	0857-52-8781
	” 水戸事務所(水戸市)	029-221-1188		ポリテクセンター米子(米子市)	0859-27-0111
栃木	ポリテクセンター栃木(宇都宮市)	028-622-9497	島根	ポリテクセンター島根(松江市)	0852-31-2800
	関東ポリテクカレッジ(小山市)	0285-31-1711		ポリテクカレッジ島根(江津市)	0855-53-4567
群馬	ポリテクセンター群馬(高崎市)	027-347-3333	岡山	ポリテクセンター岡山(岡山市北区)	086-241-0067
埼玉	ポリテクセンター埼玉(さいたま市緑区)	048-882-4079		中国ポリテクカレッジ(倉敷市)	086-526-0321
千葉	ポリテクセンター千葉(千葉市稲毛区)	043-422-2224	広島	ポリテクセンター広島(広島市中区)	082-245-0267
	ポリテクセンター君津(君津市)	0439-52-0219		ポリテクカレッジ福山(福山市)	0849-23-6391
	ポリテクカレッジ千葉(千葉市中央区)	043-242-4166	山口	ポリテクセンター山口(山口市)	083-922-1948
	ポリテクカレッジ千葉 成田校(成田市)	0476-22-4351	徳島	ポリテクセンター徳島(徳島市)	088-654-5101
	高度ポリテクセンター(千葉市美浜区)	043-296-2580		香川	ポリテクセンター香川(高松市)
東京	東京支部(墨田区)	03-5638-2280	四国ポリテクカレッジ(丸亀市)	0877-24-6290	
神奈川	ポリテクセンター関東(横浜市旭区)	045-391-2818	愛媛	ポリテクセンター愛媛(松山市)	089-972-0334
	ポリテクカレッジ横浜港(横浜市中区)	045-621-5999		高知	ポリテクセンター高知(高知市)
新潟	ポリテクセンター新潟(長岡市)	0258-33-2420	ポリテクカレッジ高知(香南市)		0887-56-4111
	ポリテクカレッジ新潟(新発田市)	0254-23-2168	福岡	ポリテクセンター福岡(北九州市八幡西区)	093-641-4906
ポリテクセンター富山(高岡市)	0766-22-2738	” 福岡事務所(福岡市中央区)		092-738-8875	
北陸ポリテクカレッジ(魚津市)	0765-24-5552	ポリテクセンター飯塚(飯塚市)		0948-22-4018	
石川	ポリテクセンター石川(金沢市)	076-267-0801	九州ポリテクカレッジ(北九州市小倉南区)	093-963-0125	
	ポリテクカレッジ石川(鳳珠郡穴水町)	0768-52-1323	佐賀	ポリテクセンター佐賀(佐賀市)	0952-26-9497
福井	ポリテクセンター福井(越前市)	0778-23-1010		長崎	ポリテクセンター長崎(諫早市)
山梨	ポリテクセンター山梨(甲府市)	055-241-3218	ポリテクセンター佐世保(佐世保市)		0956-58-3118
長野	ポリテクセンター長野(長野市)	026-243-1001	熊本	ポリテクセンター熊本(合志市)	096-242-0391
	ポリテクセンター松本(松本市)	0263-58-2905		ポリテクセンター荒尾(荒尾市)	0968-62-0179
岐阜	ポリテクセンター岐阜(土岐市)	0572-54-3161	大分	ポリテクセンター大分(大分市)	097-522-2171
	” 岐阜事務所(岐阜市)	058-265-5801		ポリテクセンター宮崎(宮崎市)	0985-51-1511
	東海ポリテクカレッジ(揖斐郡大野町)	0585-34-3600	ポリテクセンター延岡(延岡市)	0982-37-0675	
静岡	ポリテクセンター静岡(静岡市駿河区)	054-285-7185	鹿児島	ポリテクセンター鹿児島(鹿児島市)	099-254-3752
	ポリテクカレッジ浜松(浜松市南区)	053-441-4444		ポリテクカレッジ川内(薩摩川内市)	0996-22-2121
			沖縄	ポリテクセンター沖縄(中頭郡北谷町)	098-936-1755
				沖縄ポリテクカレッジ(沖縄市)	098-934-6282

実施している訓練メニューは施設により異なります。詳しくは各施設までお問い合わせください。

また、各施設のホームページにおいても事業主支援情報を掲載していますので、あわせてご覧ください。

ポリテクセンター〇〇



※施設名を入れて検索してください。